

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.74

日時	2014年2月5日
行脚先	法輪寺
住所	兵庫県姫路市井ノ口（播磨国）
行事名	

特徴

平安時代からの由緒を持つ「佛日山法輪寺」は、本尊は薬師如来、臨済宗妙心寺派の寺院です。天福元年(1233年)の頃は天台宗で海石山晦運寺と号しました。南北朝時代に入ると、播磨国守護の赤松則祐が雪溪禅師を招いて寺号を宝林寺と改め、宗派も禅宗としました。以後は赤松氏、英賀城に拠る三木氏の崇敬を受けました。播磨鑑によると、江戸時代には東西60間、南北205間を有するなど広大な寺領を誇りましたが、明治時代にその多くを失いました。昭和49年(1974年)に庫裡と書院を修築、平成4年(1992年)には2年がかりの本堂修復を終え、落慶法要が営まれました。

黒田官兵衛との関わり

「英賀城攻めを前に、豊臣秀吉が立ち寄る」との報を受け、法輪寺(宝林寺)では罐子(茶釜)一杯に湯を沸かし、雑兵が手を付けないようにと蓋をくりつけて、秀吉一行の来訪を待っていました。そこへ雑兵数人のみを連れた軽装の秀吉が現れ、茶を所望します。住職は秀吉と気付かず、まず白湯を出したところ「その罐子の茶が欲しい」と言われました。傍に居た庄屋が「これは秀吉公に差し上げる茶なので、どうしても差し上げられません」と断ると、秀吉は大笑し「我こそ秀吉である」と名乗りました。仰天する住職と庄屋に、秀吉は「今後は『湯沢山茶くれん寺』と名乗るがよい」と言い、9石9斗9升9合の朱印状を与えたと伝えられます。この際、秀吉が腰掛けて茶を飲んだとされる「秀吉の腰掛石」が2013年に竜山石を用いて再現されました。現在も境内に残るカヤの木は、秀吉来訪を記念して山主が植えたと伝えられています。

記録

